

足利学校と寺子屋の関係を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間を聞いて頂いてありがとうございます。今日の開倫塾の時間は、足利学校と寺子屋の関係を話させて頂きたいと思います。

足利学校と寺子屋と、どんな関係があるのでしょうか。

足利学校というのは皆さんご承知かもしれませんが、今、遺跡が栃木県足利市の中心街の昌平町と言うところにあります。足利学校は、上杉憲実という方が再興したといわれています。どんな本があるかと言いますと、教典ですね。宋版の教典を足利学校に上杉憲実が寄進をしまして、あと、上杉憲実による再興後には、僧俗による古い図書の寄進がありました。それを、教材として、全国から3000名もの人々が足利学校に来て勉強したといわれています。教材として用いられたのがいろんな中国からの文献です。「大学」「中庸」とか、「論語」「孟子」の四書、こういうようなものを含めて「烈士」「莊子」「老子」「史記」とか「文選」などの漢籍などを勉強したようです。ただ仏教典はここでは勉強されなかったようです。

足利学校における易学の講義は最も権威があって、足利学校が造られたのは室町時代なんですけれど、江戸時代になりまして、易者たちも足利学校で勉強をしまして、その足利学校で勉強したというのを非常に誇りにしていたといわれています。足利学校というのは、儒教を講じる専門機関として最も当時整備されたものであって、その当時なかなか東の国・東国の文化は京都を中心とする文化と比べてまだまだだったようですけれども、東国の文化の向上に非常に大きな役割を果たしたといわれています。足利学校で学んだのはお坊さんたち、僧侶たちが大部分だそうですけれども、その僧侶たちは各地のお寺で迎えられて、又、大名たちに迎えられて、易によって吉凶を占ったりとか、合戦の参謀になったりとか、城を造るのについて非常に活躍をしたそうです。

一方この時代というのは、学問に対する武士とか庶民の要求が非常に高まってきました。ですから、足利学校は、教員養成という役割を担う結果になりました。それで、足利学校で学んだ僧侶たちを抱えるいろんな各地の寺院たちは、寺子屋の先駆けとしての役割を果たしていったと言われています。ですから足利学校は、室町時代、(私はあまり室町時代という言葉は好きじゃなくて、できれば足利時代というふうな言葉にして欲しいと思うんですけれども、たまたま京都の室町という場所で幕府といいますが、政府が作られたのでそういう風なことをいっています。ただ、ほとんどの方は足利という名前を名乗っていらっしゃるのです、この時代は足利時代といってもらいたいなあとはいいます。

それはともかくとして、室町時代、)それから戦国時代、江戸時代にかけて、足利学校というのは教員養成といいますが、寺子屋の先生たちを養成する場所としての役割を果たしたというように言われています。これは、最新版の高等学校の教科書である、明成社というところから出ている高等学校の教科書の先生用のテキストを勉強させてもらって、そういうことがわかりました。(高等学校 最新日本史教授資料：明成社 2003年3月31日発行)

次には寺子屋ですけれども、庶民の子どもたちに読み書きなど、初歩の教育を施したのが寺子屋です。江戸時代からできたんですけれども、江戸時代の学校には武士階級の子どものための藩校、藩で行っている学校と、それから一般庶民の子どものための寺子屋の 2 つが平行して存在していました、こんなことは良く知られているところですが、足利学校は、お寺のかたが、お坊さんがずいぶんそこで勉強しましたので、足利学校で勉強したお坊さんたちがお寺で学校を開いて、それがきっかけになり寺子屋が開かれたと思われます。寺子屋の起源は、先ほどお話しましたように、室町の中期までさかのぼって、足利学校で勉強なさった方が、多くの方がそこで学校を開いた、寺子屋を開いたと考えられます。ただ著しく普及したのは江戸時代の中期。藩校も同じように 18 世紀の中ごろから後なんですね。これは江戸時代ですから、商業が盛んになって、交通が進んで、生産とか商売の取引に契約書とか帳面とか、手紙とか、そういうものが著しく生じました。それから江戸幕府のほうでも様々な事柄から伝達するのに文字を用いて効果を上げようとしたんですね。諸法度とかお触書とかいろんな御高札とかいった法令を広く領民に知らせるためにも、広く庶民の読み書きの能力を高める傾向を歓迎したわけです。そのことで、最初は江戸時代のはじめには江戸とか大阪といった大都市で設けられていた寺子屋も、幕末の頃は農村や漁村など隅々まで開かれるようになって、全国で 1 万以上になったといわれています。男女共学で一箇所あたりで 40 ~ 50 名くらい 1 校当たり平均寺子屋の生徒さんがいたそうです。女の先生ももちろんいました。3 人に 1 人が女の先生ということで、神田、日本橋、浅草等は女の先生の比率が極めて高かったということもおもしろい話ですね。そんな形で、江戸時代は寺子屋と藩校があったおかげで、読み書きできる方は全人口の 7 ~ 8 割いたという、世界でも驚異的な教育のレベルの高さを誇ったのが日本であります。

足利学校は寺子屋の先生の養成機関としての役割を果たし、中世から江戸時代の庶民の識字率向上に大いに役立ちました。今日は足利学校と寺子屋というお話をさせていただきました。皆さんも今のお話を思い出しながら、是非一度、足利学校を訪問なさって下さい。来週は外務副大臣の茂木敏充さんをお招きして、イラクと日本の国際貢献、さらには人間の安全保障についてのお話をお伺いしたいと思いますので、楽しみにしててください。